

少子化や人口減少で閉鎖になった保育園や小学校、スーパーマーケットなどを福祉施設に改修して活用するケースが長野県内で増えている。もともと住民に愛着のある施設を転用すれば、高齢者が多い地域の活性化拠点になりやすい。住み慣れた地域で人生を全うできるよう医療や介護、生活支援の仕組みを整える地域包括ケアシステムの考えにも沿っている。

県内の廃校や閉鎖スーパー

北に浅間山、南に八ヶ岳を望む東御市御牧原。赤福根の建物に入ると、高齢者や子どもたちが一緒に食事をしている。NPO法人、普通の暮らし研究所(同市)が運営する「台地の駅 御牧原 岩井屋」だ。発達障害児らを預かる児童デイサービスと高齢者介護のデイサービスを併設し、障害者の就労支援もする。

2010年に閉園になった御牧原保育園をNPO法人が改装し、14年に開業。園庭が盆踊り会場になるなど住民に愛着のある場所だっただけに、市から福祉施設に転用できないうち、岩井孝同理事長に相談があった。

福祉施設に転用

信州 味ト

する。地域の人が集い、障害者を知ってもらえる空間にするのが狙い。「岩井屋が来たことで地域が潤うようなキープアンドテイクの関係を目指す」と、岩井理事長は語る。

保育園のホールや教室を生かして遊び場や作業場。高齢者が幼児をあやす姿もあり、利用者の間に壁はない。近く障害者も働ける純喫茶を開業

を改装して福祉施設「里山の家 木島平」にしたのは社会福祉法人、みゆき福祉会(同市)。地域を密着型の特別養護老人ホームとショートステイ施設として14年に開業し

社長は広い建物の活用を知恵を絞った。中核の規模多機能型居宅介護サテライト「毛坊老所あすま家河原町」は高齢者介護、障害者や障害児の活動支援、0歳からの託児サービスも24時間対応する。

高齢者多い地域 活性化拠点に

わが家の生まれ変わらせた。大石ひとみ



保育園を改修した「台地の駅 御牧原 岩井屋」(東御市、写真上)。小学校を改修した「里山の家 木島平」(木島平村)



閉鎖したスーパーを介護や商業の複合施設に改修した「オヒサマの森」(宿田村)

地域包括ケアの役割担いやすく

少子高齢化で閉鎖になった小学校や商業施設が出る一方、福祉施設が必要が高まっている。施設転用は自然の流れだ。住民に愛着のある施設だった場合、地域に開かれたま

「入院から在宅へ」。国の総合拠点機能を持つ。配食や見守りなどの支援を地域で充実させ、住み慣れた地域で住み続けられる地域包括ケアシステムを普及させようとしている。施設と地域の壁を低くできる転用型施設は、地域包括ケアの主要な役割を担いやすいといえる。(宮内 慎一)

(宮内 慎一)